

多摩市一般廃棄物処理基本計画「ごみ減量目標」進捗状況について

◆多摩市の廃棄物減量目標

規定計画	計画の実施状況・達成度	評価
〔平成23年度 ⇒ 令和4年度目標〕	〔令和元年度〕	
① 排出量（燃やせるごみ・燃やせないごみ・粗大ごみ・有害性ごみ）を10%削減（家庭系・事業系とも毎年1%ずつの着実な減量）	① 排出量は、令和元年目標値7%減に対して <u>10.9%減</u>	A
② 資源化率40%以上を目指す	② 資源化率 <u>33.8%</u>	B
③ 焼却残渣を資源化し埋立量をゼロに近づける	③ 埋立量 <u>0 t</u> (平成27年4月以降埋立量0 t)	C
現時点での分析・対応等		
<p>本計画で掲げる3つの目標のうち、①、③は前年に続き令和元年度も上回る結果となった。しかし、その内訳をみると、順調にごみ量は減少してきたものの、家庭系のごみ量が対前年比8.3gの微増であり、可燃ごみ、粗大ごみ量が増加していることが要注意である。また、資源化率の実績についても、対前年より0.7ポイント下がっており、目標値への道のりは長いため、資源化率向上の方策検討が必要である。</p>		

【評価基準】

A 予定以上に進捗している B ほぼ予定どおりである C 予定より遅れている・取り組みが足りない

(参考) 平成29年度までの実績に対する審議会の評価 → A * 予定以上に進捗している。

※付帯意見: 事業系と比較して、減量が遅れている家庭系可燃ごみの削減を進める必要がある。

◆市民1人当たりごみ減量目標

単位 (g/人日)

	基準値(H23年度)	目標値(R4年度)	目標値(R元年度)	実績値(R元年度)	評価
燃やせるごみ	599.3	539.4	557.4	<u>539.9</u>	A
燃やせないごみ	31.8	28.6	29.6	<u>16.4</u>	
粗大ごみ	21.8	19.7	20.3	<u>25.3</u>	
有害性ごみ	1.1	1.0	1.0	<u>1.0</u>	
合計	654.1	588.7	608.3	<u>582.6</u>	B
現時点での分析・対応等					
<p>令和元年度の市民一人当たりのごみ量は、577.7gだった前年度と比較すると微増したものの目標値を上回っており、減量の取り組みは順調に浸透し進捗している。課題としては、粗大ごみの減量である。粗大ごみは減量しにくいことから、今後、再利用、転売などリユース（リサイクル）についての啓発や民間サービスの活用等検討していく。</p>					C

【評価基準】

A 予定以上に進捗している B ほぼ予定どおりである C 予定より遅れている・取り組みが足りない

(参考) 平成29年度までの実績に対する審議会の評価 → A * 予定以上に進捗している。

※付帯意見: 減量が遅れている粗大ごみについては、減量が進まない原因の分析をし、一層の減量に取り組む必要がある。

◆総ごみ量減量目標

単位 (t/年)

	基準値(H23年度)	目標値(R4年度)	目標値(R元年度)	実績値(R元年度)	評価
総ごみ量	41,911	40,142	40,752	<u>38,185</u>	A
現時点での分析・対応等					B C
<p>令和元年度の総ごみ量は、37,954 t/年であった対前年度から増加したものの目標値は達成している。これは、事業系ごみが平成28年度の事業系ごみ処理料金の改定による減少効果が現れていること、また家庭からのごみ排出抑制に取り組む市民の努力（協力）によるものである。さらなる減量効果を引き出すため、生ごみの排出方法やリサイクル、食品ロスなどの啓発を進めるとともに、現在約230団体が行っている集団回収を継続（充実）していくことで、総ごみ量の減少に努めていく。</p>					

【評価基準】

A 予定以上に進捗している B ほぼ予定どおりである C 予定より遅れている・取り組みが足りない

(参考) 平成29年度までの実績に対する審議会の評価 → A * 予定以上に進捗している。

※付帯意見: 集団回収の充実、食品ロス削減への取り組み、2R(リデュース・リユース)を進めるべきである。